



曼殊院門跡

MANSHUINMONZEKI

江戸時代王朝文化の絆
茶・華・書・画・香と庭の寺

曼殊院

<http://www.manshuinmonzeki.jp/>

叡山電鉄 修学院駅下車徒歩約 20 分

拝観時間 9:00~17:00 (受付は~16:30)

拝観料 一般 600 円

曼殊院門跡は洛北屈指の名刹である。門跡というのは、皇室一門の方々が住職であったことを意味し、勅使門の両側の塀に残る五本の白い筋はその格式を今に伝えるものである。

延暦年間（728~806）、宗祖伝教大師最澄により、鎮護国家の道場として比叡の地に創建されたのが曼殊院のはじまりである。

その後、天暦年間（947~957）是算国師のとき比叡山西塔北溪に移り、「東尾坊」と号した。また、この国師が菅原家の出生であったことから、北野天満宮が造営されると初代別当職に補され、以後明治維新まで北野別当職を歴任することになる。寺では是算国師を曼殊院初代としている。

天仁年間（1108~10）、八代忠尋大僧正が寺号を「曼殊院」と改め、北山に別院を建立された。そして明暦二年（1656）に二十九代良尚親王が入寺され、現在の地に堂宇を造営したのが今日の曼殊院である。



スタート

修学院離宮道
しやうがくいんのちのみち

市バス5号系統
(京都駅~岩倉橋車場)
京橋駅より58分、国際会館前駅が
59分

市バス31号系統
(西桑島丸~岩倉橋車場)
西桑島丸前より31分

徒歩46分

1 修学院離宮
しやうがくいんのちのみち

徒歩20分

2 曼殊院門跡
まんしゆいんもんぜき

徒歩20分

3 圓光寺
えんこうじ

徒歩2分

4 詩仙堂
しせんどう

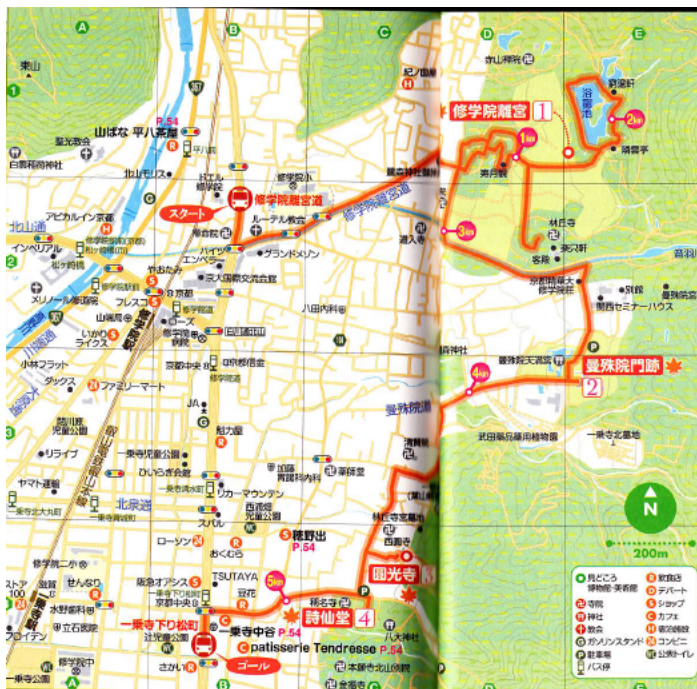
徒歩10分

ゴール

一乗寺下り松町
いちじょうじのりまつちやう

市バス5号系統
(京都駅~岩倉橋車場)
京橋駅まで47分、国際会館前駅まで
13分

市バス8号系統
(一乗寺下り松町~
北大路バスターミナル)
松ヶ崎駅まで10分



しやうがくいんちのみち・まんしゆいん・しせんどう

修学院離宮・曼殊院・詩仙堂

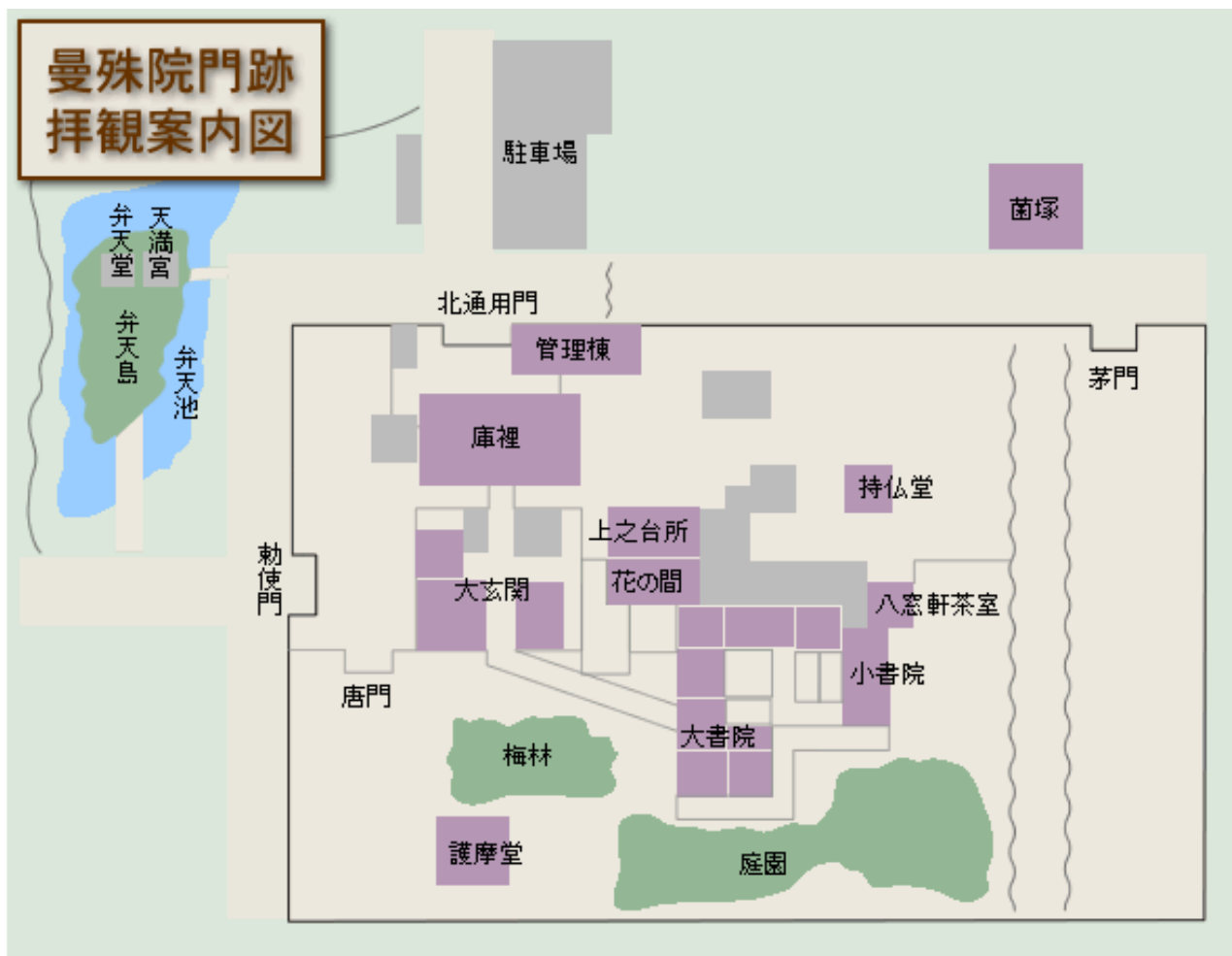
比叡山麓
静かな山辺の道
名庭をたどる

古来、文人や貴人の隠棲の地だった洛北の比叡山麓。究極の日本庭園と評される修学院離宮は事前に申し込みが必要だが、一度は訪れたい場所。後水尾上皇がみずから造営した壮大な敷地に3つの離宮が配され、高低差を生かした庭園は圧倒的なスケール。ゆるやかな坂道を歩き、曼殊院へ。建築美と庭園美で知られる雅な門跡寺院だ。のどかな丘陵地を下ると住宅地に小さな寺社が点在するエリア。学問所として栄えた圓光寺は秋には華やかな錦織に染まる。詩仙堂は四季折々の草花と春のサツキが彩る庭園が見ものだ。

のどかな自然のなかに
隠棲した貴人たちの
風雅な世界を垣間見る

● 見どころ
修学院離宮
● 寺社
● 神社
● 公園
● 花見スポット
● 駐車場
● バス停

● 飲食店
● パート
● ショップ
● カフェ
● 観光情報
● コンビニ
● 公衆トイレ



勅使門

高い石段の上に西に面して立つ曼殊院の正門



庫裡 (重文)

寺院の台所 (大台所)。通用口庫裡 (玄関) である。



大玄関

虎の間

大玄関、虎の間襖絵 (重文) は狩野派一門、それも永徳の筆である。虎の胴が長く描かれているのは、その当時虎といったものが我が国の絵画のなかに描かれることがなかったので、おそらく想像の絵であろう。虎の獠猛さをあらわし、そのすばしこさを十分描いているのはさすが永徳である。

竹の間(木版画による壁紙)

竹の間というのは玄関わきの室である。一見描かれた竹のように思うが、実は版画である。今でいう壁紙ということである壁にすぐさま壁紙で装飾したこの室は、曼殊院門跡が竹ノ内門跡といった縁りからであろうか。この版画はわが国最初の版画である。

孔雀の間

描いたもので、南画風であり、純孔雀と、親とのバランスがとてもよい。人間の一生を孔雀の姿で表光寺如来をまつている。



孔雀の間襖絵は岸駒が粋の日本画である。仔のとれているのが、ほほえまし現したものである。ここに善



上之台所

高貴な来客や門跡寺院の住職などのための厨房である。

大書院 黄昏の間

正面左に曼殊院棚と呼ばれるものがあり、十種類の寄木でつくられて



いる。

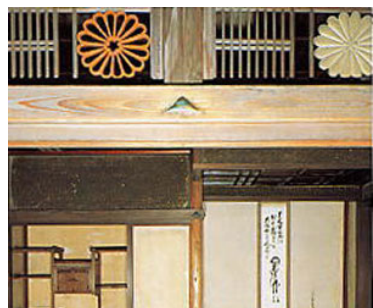


八窓軒茶室

八窓というのは、仏教の八相成道にちなんだものである

小書院 黄昏の間

正面左に曼殊院棚と呼ばれるものがあり、十種類の寄木でつくられている。



唐門

大玄関の右側。唐門というのは唐破風の門ということである。



天満宮

菅原道真公を祀る祠である。曼殊院内の一番古い建物であり、鎮守堂でもある

弁天堂

弁才天が祀られている。



菌塚

菌類学者笠坊武夫氏が昭和 56 年に建立した。

庭園

大書院前には遠州好みの枯山水庭園が広がっており、水の流れをあらわした砂の中に鶴島と亀島を配している。小書院は静かに水面をさかのぼる屋形舟を表現している。

鶴島にある樹齢 400 年の五葉松は鶴を表現している。そして、その根元には曼殊院型のキリシタン灯籠がある。公家風で趣味豊かな良尚親王の趣向を反映している。



鷺森神社

<http://kanko.city.kyoto.lg.jp/detail.php?InforKindCode=1&ManageCode=1000083>

貞観年間（859-77）創建と伝えられ、もと修学院離宮地にあったのを元禄年間（1688-1704）に現在地に遷座。スサノオノミコトを祀り、修学院、山端地区の産土神である。また境内には触れると夫婦和合や良縁が授かるという「八重垣」の石がある。5月5日の「さんよれ祭」は少年達が着物姿に紅たすき、菅笠姿で手には扇子を持ち‘さんよれ、さんよれ’のかけ声で鉦、太鼓で神輿とともにねり歩く。巡行コースは赤山禅院発→氏子町→鷺森神社着。参道は紅葉の美しさでも知られている。

建立：平安時代（貞観年間（859-77））

紅葉の名所として人気の鷺森神社や赤山禅院、小堀遠州好みの枯山水庭園が見事な曼殊院、徳川幕府が造形した広大な庭園をもつ修学院離宮などそれぞれの庭園が出す趣の違う彩りの魅力が体験できる。

鷺も利神社の公式サイトによりますと、以下のように記述されています。